



### 【冒頭 1 分要約：15 年分析が導いた結論】

【結論】時系列問題で必要なのは「孤立した年号の丸暗記」ではなく「前後関係の構造化」である。

2012～2026 年度の 15 年間の出題データを分析すると、大問 1 の時系列処理には以下の明確な特徴がある。

1. 15 年中 11 年度の高頻度出題：年代整序や位置判定などの時系列処理は、15 年間のうち 11 年度（73.3%）で確認されている。
2. 4 つの明確な出題類型：「標準 4 事象整序」「他時代除外＋整序」「カード挿入・時代位置決定」「移行期判定」の 4 類型に集約される。
3. 年号知識と論理の役割分担：複数年度の並べ替えでは政治過程の前後関係や政権の推移から順序を判断できる。ただし、幕末～明治前半のように近接した期間に重要政策が集中する領域では、主要年号の知識が判断を速く、安定させる。

★ 年号の数字を闇雲に思い出すな。「誰の時期か」「何が起きた後に次が起きたのか」を線で結べ。

## 第 1 章：15 年間の時系列出題データと 4 類型

### 1. 15 年間の出題データから確認された客観的事実

- ・出題頻度：過去 15 年間のうち 11 年度で時系列処理が出題されている（※単独事象の時期特定や、本教材の 4 類型に含めていない単純な年表区間照合のみの年度は除く）。
- ・出題の集中領域：中世の武家政権の展開、江戸幕府の幕政・対外政策、そして幕末から明治立憲制成立までの政治過程が繰り返し問われている。

### 2. 時系列処理の 4 類型

- ・類型 1：標準 4 事象整序（計 6 年度）  
同一時代内、または時代をまたぐ 4 つの事象を古い順に並べる基本形式。
- ・類型 2：他時代除外＋整序（計 2 年度）  
4 つの選択肢の中に混入した異なる時代の事象を 1 つ除外した上で、残る 3 事象を並べる形式。
- ・類型 3：カード挿入・時代位置決定（計 1 年度）  
略年表の空欄（ア～エなどの区間）に対し、提示された出来事カードが入る位置を特定する形式。
- ・類型 4：移行期判定（計 2 年度）  
中世から近世、近世から近代など、社会構造が大きく転換した画期（節目）を判定する形式。

## 第2章：時系列・年代位置処理を攻略する「解法ロジック」

### 手順1：時代ラベル貼りとは他時代の除外

選択肢を見たら、まず各事象に「古代・中世・近世・近代・現代」などの時代ラベルを余白に書き込む。設問が指定する時代枠から外れている事象が混ざっている場合は、その選択肢を即座に除外（×）する。

### 手順2：政治過程と前後関係のペア作り

残った選択肢について、以下のいずれかの手掛かりを用いて「確実に前後が決まる2つのペア」を作る。

- ・政権担当者の推移： 頼朝（鎌倉初期）→ 泰時（鎌倉中期）→ 義満（室町全盛期）→ 義政（室町衰退期）
- ・政治過程の連鎖： 新政府方針（御誓文）→ 自由民権運動の高まり（建白書）→ 体制整備（内閣制度）→ 憲法発布
- ・事象の前後関係： 方針表明・制度創設 → その運用や反発・発展

### 手順3：両端（最初と最後）の固定

最も古いもの、または最も新しいものをまず固定し、選択肢を絞り込んで最終的な配列を決定する。

#### 【重要】年号暗記の境界線

- ・前後関係で解く領域： 異なる時代をまたぐ整序、政治過程の大きな流れ、政権担当者の交代。
- ・年号が有効な領域： 幕末～明治初期（1854 日米和親条約、1858 修好通商条約、1868 御誓文、1871 廃藩置県、1881 国会開設の勅諭、1889 大日本帝国憲法発布）のように、同一の数十年間に主要事象が集中している領域。

## 第3章：実戦定着ドリル（授業内演習・全16問）

※答え合わせで不正解だった場合は、解説を見る前に「なぜ間違えたと思うか」をチェック欄から1つ選ぶ。

### 【系統1：標準4事象整序演習（問1～問6）】

#### 【問1：古代の政治展開】

次のア～エを、年代の古い順に並べ替え、記号で答えよ。

ア：聖武天皇の命により、大仏造立の詔が出された。

イ：中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏を倒し、大化の改新が始まった。

ウ：桓武天皇によって、都が平安京に移された。

エ：唐の法律にならって大宝律令が制定され、律令国家の仕組みが整った。

#### 【解答欄】

答： \_\_\_\_\_

誤答原因：[ ☐ 知識不足 ☐ 時代判定 ☐ 前後関係 ☐ 他時代除外 ☐ その他（                      ） ]